

平成 19 年 5 月 16 日

各位

大阪 市 中央 区 瓦 町 三 丁 目 5 番 7 号
株 式 会 社 ア ド バ ン ス ク リ エ イ ト
代 表 取 締 役 社 長 濱 田 佳 治
(コード番号 8798)

(問 合 せ 先) 執 行 役 員 経 営 企 画 室 長 村 上 浩 一
電 話 06-6204-1193

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 18 年 11 月 22 日の決算発表時に公表した平成 19 年 9 月期中間（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の業績予想の修正及び特別損失の計上並びに平成 19 年 9 月期（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 9 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）
(単位：百万円，%)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3, 0 0 0	1 1 0	4 5
今 回 修 正 予 想 (B)	4, 5 8 4	8 8	△ 2 9 8
増 減 額 (B - A)	1, 5 8 4	△ 2 2	△ 3 4 3
増 減 率 (%)	5 2. 8	△ 2 0. 0	—
(ご参考) 前期実績(平成 18 年 9 月期中間)	3, 3 1 7	△ 2 3 7	△ 2 2 7

2. 平成 19 年 9 月期中間個別業績予想数値の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）
(単位：百万円，%)

	営 業 収 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2, 8 0 0	1 0 0	4 0
今 回 修 正 予 想 (B)	4, 2 7 5	3 5	△ 3 1 0
増 減 額 (B - A)	1, 4 7 5	△ 6 5	△ 3 5 0
増 減 率 (%)	5 2. 7	△ 6 5. 0	—
(ご参考) 前期実績(平成 18 年 9 月期中間)	2, 8 0 4	△ 2 0 7	△ 2 2 2

3. 当期中間期業績予想の修正の理由

個別営業収益につきましては、当初予想発表時には前年実績とほぼ同額と保守的に見ておりましたが、前期末に期ズレしていた保険会社からの各種ボーナス等の入金・計上に加え、インターネットプロモーションの大量投下による売上増があり、1,475 百万円の増加(前年同期比 52.5%の増収)となり、連結売上高では 1,584 百万円(前年同期比 38.2%の増収)の増加となりました。

経常利益につきましては、リアル(店舗やコールセンター)とバーチャル(IT)の融合を目指し、デジタル化に対応したインターネットプロモーションを増加させた結果、予想以上に広告宣伝費用が増加しました。また、「質への転換」を図るべく新卒定期採用に係わる採用広告費・教育研修費も高水準で推移しました。更に当初予想していた店舗統廃合に伴う経費削減効果が商業施設の都合や人事対応等の遅れのために十分に発揮されず、中間期におきましては予想よりも

販売管理費が高止まりをしてしまいました。結果、個別経常利益は前回発表予想比 65 百万円減少の 35 百万円、連結経常利益は同 22 百万円減少の 88 百万円となりました。

当期純利益につきましては、リストラクチャリングを早め、予定より多くの店舗統廃合をこの中間期に実施したことによる退店損失、並びに無形固定資産の評価厳密化に伴う減損等の特別損失を計上した結果、個別当期純損失 310 百万円、連結当期純損失 298 百万円となりました。但し、中間期にリストラクチャリングの前倒しを行ったことにより、下半期におきましては「質への転換」による収益改善および経費削減効果が反映できるものと考えております。

4. 特別損失の計上

特別損失の内訳ですが、個別では、店舗統廃合に伴う退店損失として 252 百万円、無形固定資産の減損損失として 188 百万円、子会社に対する貸倒引当金繰入として 78 百万円、その他固定資産除売却損等で 165 百万円、合計 683 百万円を特別損失に計上しております。連結では、子会社である株式会社アドバンスメディアマーケティングにおける取引先の倒産等に伴う広告実施権償却等が加算され合計 688 百万円を特別損失に計上しております。

5. 平成 19 年 9 月期連結業績予想数値の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日） (単位：百万円，％)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	7, 5 0 0	6 2 0	2 6 0
今 回 修 正 予 想 (B)	9, 1 0 0	8 0 0	2 6 0
増 減 額 (B－A)	1, 6 0 0	1 8 0	－
増 減 率 (％)	2 1. 3	2 9. 0	－
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 9 月期)	5, 3 0 9	△ 1, 6 9 7	△ 1, 8 9 6

6. 平成 19 年 9 月期個別業績予想数値の修正（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日） (単位：百万円，％)

	営 業 収 益	経 常 利 益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	7, 0 0 0	6 0 0	2 5 0
今 回 修 正 予 想 (B)	8, 5 0 0	7 5 0	2 5 0
増 減 額 (B－A)	1, 5 0 0	1 5 0	－
増 減 率 (％)	2 1. 4	2 5. 0	－
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 9 月期)	4, 6 3 5	△ 1, 6 8 9	△ 1, 9 0 4

7. 当期業績予想の修正の理由

個別営業収益につきましては、前述の中間期の売上増加を加え、当初予想より 1,500 百万円の上方修正となる 8,500 百万円(前年同期比 83.4%の増収)、連結売上高は当初予想より 1,600 百万円の上方修正となる 9,100 百万円(前年同期比 71.4%の増収)の見込みであります。経常利益につきましては、前述の上半期にリストラクチャリングを早めたことにより、「質への転換」による増収および経費削減効果が通期においても反映でき、個別経常利益は当初予想より 150 百万円の上方修正となる 750 百万円、連結経常利益は 180 百万円の上方修正となる 800 百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、中間期における損失を吸収し、当初予想通りの利益が確保できる見込みであります。

上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提にしています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。